

新・第7話「風の教室」

むかしむかし、あるところに、「風の教室」というふしぎな学校がありました。そこでは、見えない先生たちが、風のようにすーっと現れては、こころの奥のたいせつなことを、そっと教えてくれるのでした。

ある日、この学校で、とってもたいせつな『けんしん』が行われることになりました。

これは、命にかかわる大ごとで、学校じゅうがそわそわしていました。

でも…ふたを開けてみれば、生徒のなかには来ていない子もチラホラ。

あらまあ。

時間割はひっくり返るわ、先生たちはバタバタするわで、まるで台風が教室にやってきたみたい。

「いったい何を考えてるの！」と、びしっと怒ったのは、いつもピシッとしたきびしい女の先生。

主人公の“わたし”は、この先生にずっと「きっと嫌われてる…」と思っていました。

ところがどっこい、その先生が急にふり返って言いました。

「あなた、わたしのこと…好きよね？ わたしも、好きよ？」

へっ！？ なにその展開！？

でも、びっくりしたはずなのに、こころの中に、ふわっとあったかい風が吹きましました。

そのあと、どこからともなく「新しい鞆」がやってきて、プレゼントのように渡されました。

やわらかくて、なんだか未来のにおいがします。

さてさて、そこに登場したのが…ちょっと変な、若い男の先生。

シャツはヨレヨレ、髪はボサボサ。まるで風に吹かれた洗濯物。

「今日から講師になりました？」と、のんびり登場。あらまあ、教室のエアコンまで勝手にポチッと切ってしまいました。

「地球のために、ですから！」とドヤ顔。

いや、エコは大事だけど、空気も読んでくださいな。

“わたし”は言います。

「まあ、私はいいけど、他の先生たちが来たら…知らないよ？」と。
少し逃げの姿勢もある私（笑）
そのあと、みんなでテレビを見ていたら…突然プツンと画面がまっくらに。
「アイツがまた何かやったな」と思いきや、なんと！先生の足がコンセントに
ひっかかって、スイッチを踏んでいただけでした。ズコーッ。
そんなドタバタのなか、ちいさな足音が、トトト…と近づいてきました。

金色の毛をふわっとなびかせて現れた一匹のニャンちゃん。
夜の月の秘密を知っていそうな、おめめのするどい猫です。
とっても繊細で、ちょっとやそっとじゃ、心をゆるしません。
“わたし”は思いました。「あの男の先生には、この子の心はとらえられないかもしれ
ない…」と。

でもね、伝わらないからって、その繊細さの価値が減るわけじゃない。
そっと見守ってくれる誰かがいれば、やわらかなこころも、ちゃんと力になるの
です。
“わたし”は、ニャンちゃんのとなりにすわって、まっくらなテレビをながめました。
そこには、まだ教えてもらってないけれど、大切にしたい気持ちが映っているよ
うでした。
そうして、“わたし”は、もらったばかりの新しい鞆をかかえて、またひとつ深い
夢のなかへと歩きだしました。